



和装本

ケ 5

44

92





大坪本流武馬必用卷之五

醫馬 目錄

醫奴の監錫附物系流流の傳次知り

流る形状の毒

脈色の毒

息脈の毒

上六脈下六脈の毒

右運通体の毒

二外りの毒

陰陽虚虚の毒



- 一 一七傷八邪の変
- 一 四方の変
- 一 五臟の患れり
- 一 五色痰えくは季王命の病状なり
- 一 點痛の毒
- 一 七箇の毒熱の毒
- 一 十二経絡の毒
- 一 針灸傳の毒
- 一 芸初血痰れり及理の毒
- 一 よつちの針の経路を知る毒

- 一 一 醫と撰り理の毒
- 一 一 源氏杜物教の毒
- 一 一 清者教の毒
- 一 一 息相毒の毒
- 一 一 強子海毒強毒毒痰れり毒
- 一 一 内所くまりの毒
- 一 一 目毒の毒
- 一 一 毛生毒の毒
- 一 一 たいこの説の毒
- 一 一 る本今日の毒



大坪本流武馬必用卷之五  
 東武  
 醫政の道を宗人うくまうとてこと  
 なる事あり是國を善伸也より師の及  
 始より此の始のころ師なること  
 師をこころしあはれとてこと  
 夫れ師をて遂小政の及とめりゆ  
 せり後其大己其を以てとてとて牛  
 以天官とあつててまつる物事とて流  
 の事あり師官の流流取て醫政の

大坪本流武馬必用卷之五

東武

各藤定易彙編

一 醫政の道を宗人うくまうとてこと  
 なる事あり是國を善伸也より師の及  
 始より此の始のころ師なること  
 師をこころしあはれとてこと  
 夫れ師をて遂小政の及とめりゆ  
 せり後其大己其を以てとてとて牛  
 以天官とあつててまつる物事とて流  
 の事あり師官の流流取て醫政の

乃為卷の醫師あり穆公を叙を稱し  
て伯楽の軍といふ史あり漢書に  
醫を白人とすて伯楽ははしり  
也今代を師得ありて療治を為  
其人多し一義孝公の醫政の書も既  
之の皇子の醫細中記とありて編  
りあり唐公の書もはくはく醫療  
とありんと思つる漢大令穆公安  
元辛良馬集朝鮮る後を叙すて  
倭のありと考く療治をありて倭を

大坪流の醫政の書ありその内あり金堂  
年二考を令穆の事叙ありて  
妙くありて書あり小河宗澄の  
天地圖樞もあり書あり樞書乃流  
の法集集しよも療治をあり後  
昌福の療醫月録集しよも編の書あり  
業治並ひしよも流の醫あり  
ありて多し一書師の方但とあり  
君臣使の法立く名物の歌歌うの如く  
病をうの事あり一也のるの命叙絶ても大

又あるつみとありよしく、又ある瘧疾を  
あり、又あるあり

一 健る者、疾あり、又眼法く、照り、即ち、  
て、心、く、鼻息、温和、く、吸息、  
く、呼吸、く、口中、舌、く、小、  
花、の、く、首、尾、を、動、く、極、是、  
立、く、く、毛、の、く、く、尿、濁、り、て、  
盡、固、く、精神、悍、勇、て、脈、平、あり、  
と、あり

一 くるの脈者、三國、之、説、を、あり、これ、  
あり

之のあり、又、左、の、脇、の、く、  
あり、末、は、肺、心、肝、の、脈、あり、  
ら、者、脾、胃、の、脈、あり、  
く、あり、右、の、方、  
子、崔、家、  
を、心、肺、あり、  
肝、肺、あり、  
腎、極、あり、  
殊、教、  
あり、末、を、陽、極、  
あり、末、を、陰、極、

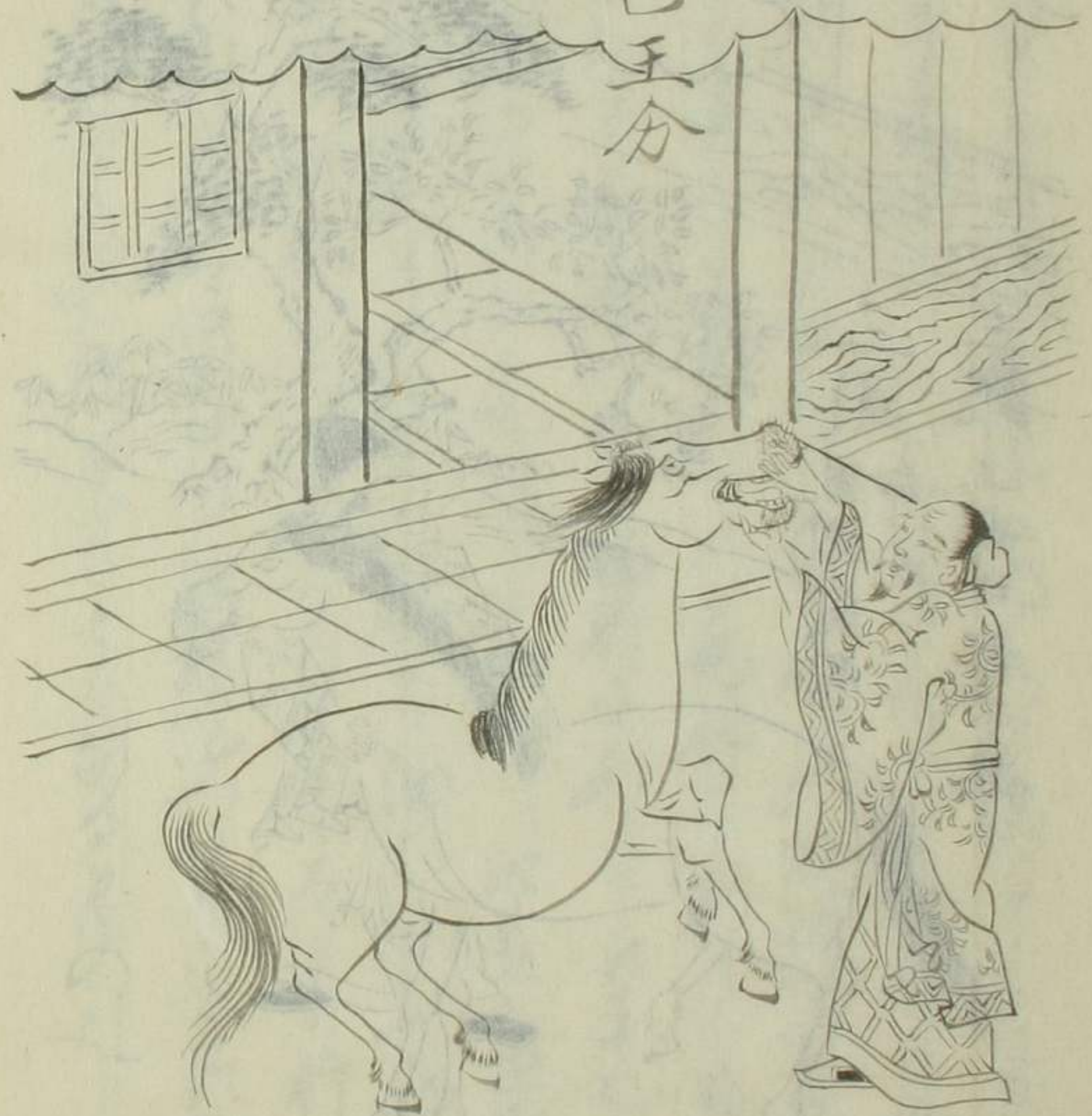
とすあり 脈末の脈の流るるを  
 る者病をいふは 死する毒あり 脈を  
 下る又凡ゆるく 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を  
 脈をいふは 脈をいふは 脈を



三関 風関氣関  
 命関  
 三部 上部 中部 下部



口色五分



一是肺といふを呼吸の器といふ病状を知る  
事あり又觀動の脈といふを芭蕉毛の  
邊より脈是を管といふ病状を知るあり其  
品五種ありは少くは觀動の脈といふは  
之のあり

一上六脈下六脈といふ事あり是は六陽  
六陰といふ也

眼脈厥陰肝經  
胸堂小陰心經  
夜眼厥陰包絡

鵝脈大陰肺經  
同筋大陽小腸經  
膝脈陽明大腸經







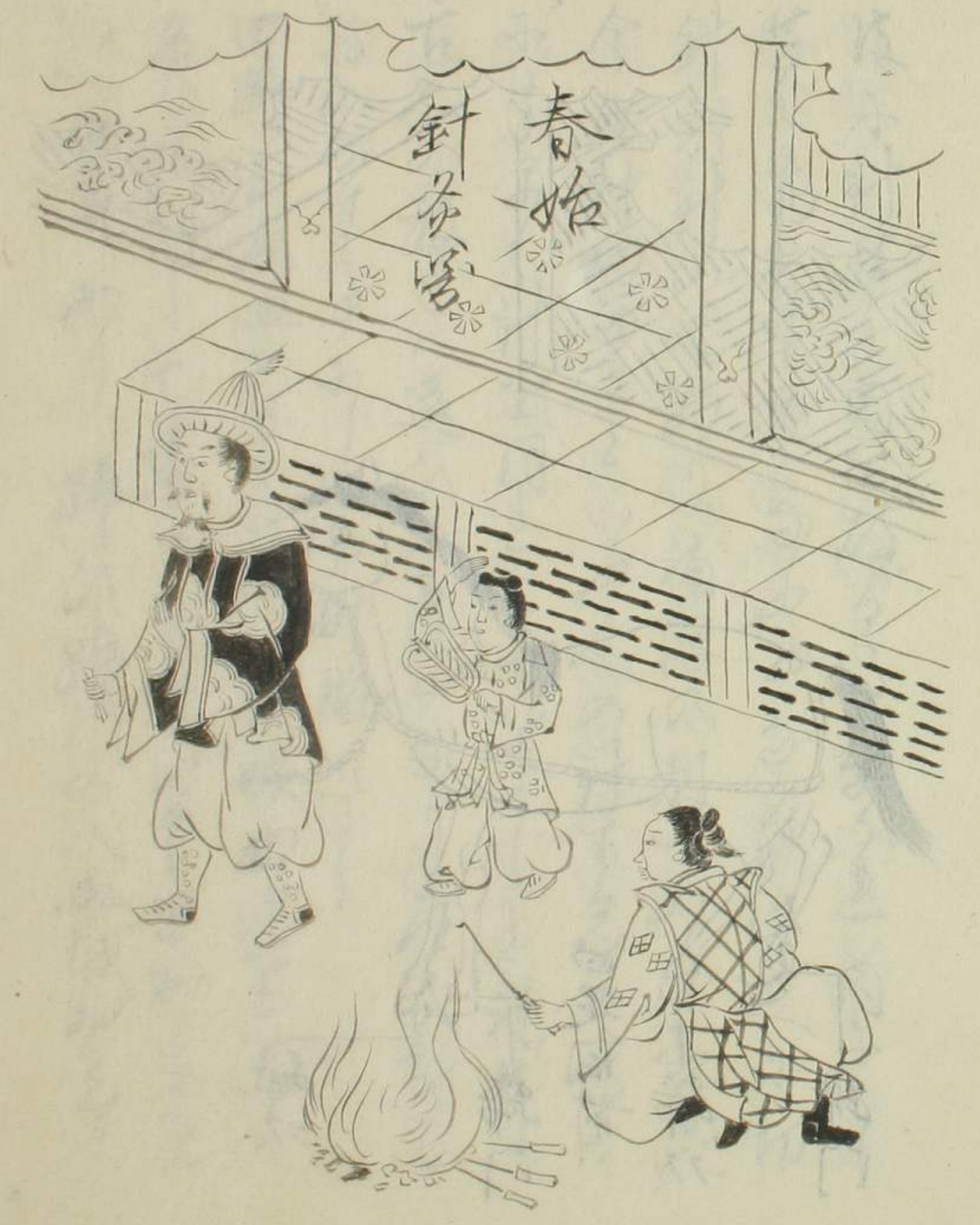
と効く一はまた物事の心と身とあり  
一 點痛といふ事あり 宗人おのひ物事を  
料文ら改改てさうさるあり 以てよ  
點するとの 膈尖の痛あり 以て平く  
點するとの 膈尖の痛あり 以て平く  
心との 宗人の痛之 以て使て點するとの  
天<sup>えん</sup>の痛あり おまを移し 以て使て  
痛あり 元<sup>えん</sup>改をさうさるあり 以て  
さうさるの 漏蹄の痛あり 蹄を使て  
一とまの 蹄を引て點するの 蹄尖の痛

あり 蹄小かくり 點するの 蹄尖の痛あり  
眼をさす 以て 走る 膝上の痛あり 眼を  
曲くひき 筋上の痛あり 胃以小脚をさ  
れと點するとの 瘰癧骨の痛あり 以て上  
働うん 點せさるの 蹄尖の痛之 故にり  
平蹄あり 胸の痛あり 以て改以て小静  
さるの 外 跟のいさみあり 又外小静の  
白く 踏を 裡 跟の痛あり 以て改以て  
脚上の痛之 以て 打 拵て 以て 膈上の痛  
あり 脚を引くを 厚 翹 標 多の痛之



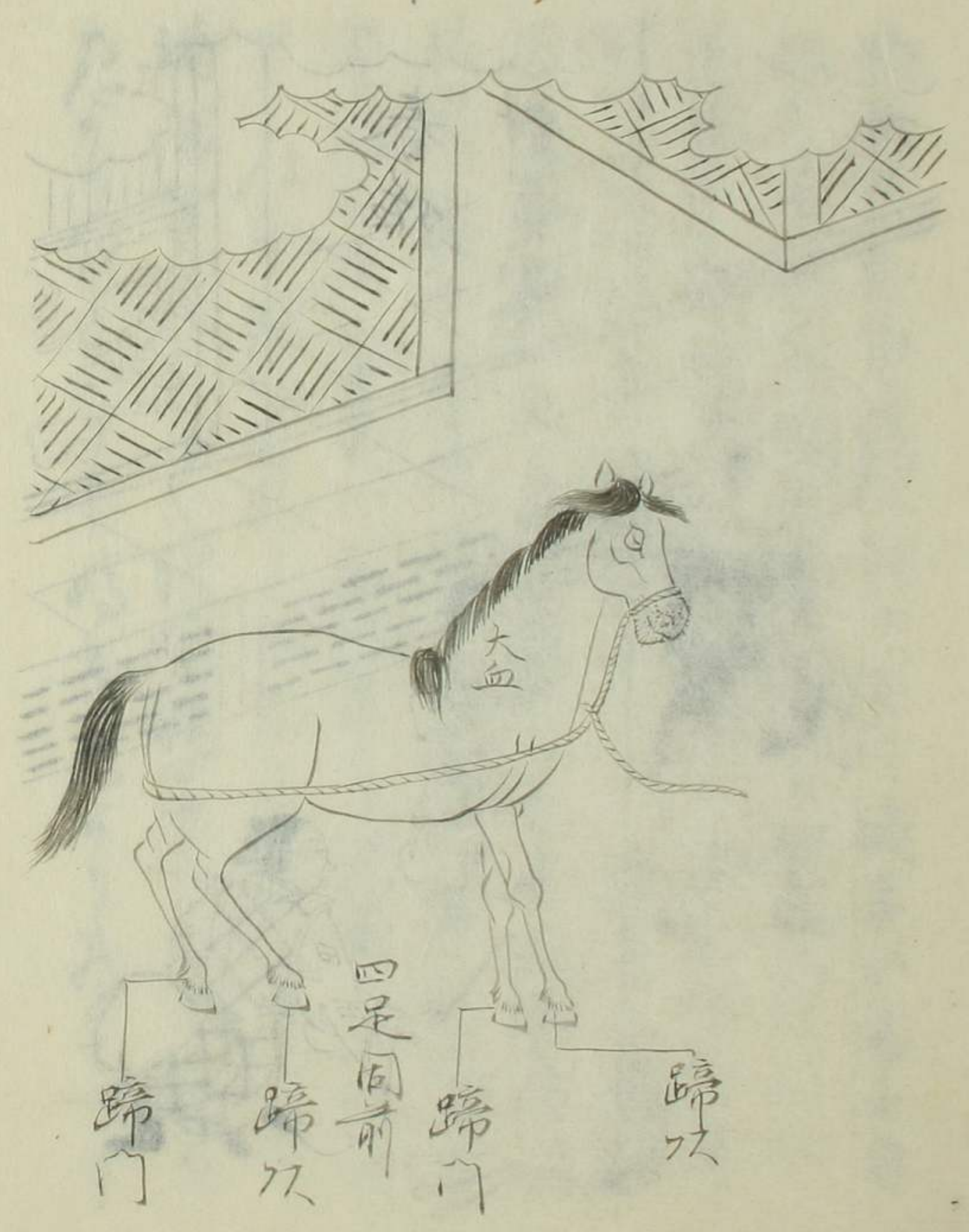


晦朔の爲に暈せ海く下し減黄の爲十日  
 以て是禍害の爲に終命を記せり  
 一 去始と血取れりしとて黄を去りし社を  
 針と割りて去治以て去りし驥集子去初  
 て棄血如泥を棄惜血如谷を去りし  
 放血の論を秦穆公と伯乐的軍の流りも  
 又得る平溪曲川を去りし以事以論せ  
 甲子年徳子去りし右子針をとりて  
 補治せりしとて針を去りしとて  
 去りしとて去りしとて去りしとて





皮小針せし肉を破るるのありし一肉小針  
 せし筋骨を破るるのありしは小針切  
 針割針の傳あり補治の教ありあるは  
 今血針切ありし人の針すをえ得る  
 小針あり針を同しとせしと補治  
 古人の教を遠くはるあり及治せる  
 者のあするありし一汗服し  
 一は蹄小血ありしを夜服曲比とす  
 一は灸しし一七書子書し回下とす  
 一は灸しあり蹄門の八血改あり





ありしあやまきしこふは散りて  
 一人一人の心葉はあつて到りしを  
 秘方とせり 一由らん葉の病子討て  
 功ありし奇妙不忠後ありし予は  
 年ひこく散葉を散りて習えん  
 海氏牡蛎散之を傳ふるを病の  
 七ヶ七度焼くそを毎小葉の汁と  
 焼七日の内子指はる焼ありし  
 粉中してこの汁を流ひたの葉を  
 火のふちを内して月下火の  
 ありし

ありしこの旋色のさうり  
 ありしをわすれし  
 消黄散  
 葉ありし其日暑天子を  
 消黄散

黄耆 貝母 知母 大黃 升麻  
 黄芩 鬱金 耳草 石菖蒲  
 粉小勺 各等分 小合く 蜜少く 練て 唯  
 阿耨多羅三藐三菩提



口を洗せ且相茶を飲る。一  
一 膝池をくらく 飯小る目とが小車わ  
らく菊の葉取のあしをけし  
目の目へあしをくするものありて  
摩目窓目上実目小をくれてより  
一 毛も第を 両いものあ焼と音茶を  
一 孫合さく毛のあしを 陽陽さて  
さく 糖針を指すなり  
一 世法小くくるとさく 高流さく 膺也  
とさく 八條小くるとさく 肉をさく

歌感さくさく又或人泣き大場さく  
一 糸玉子のあしあるさく 安齋の流さく  
大鷹と記さくは神さくあしを  
さく眼さくさく 進是もさくさく  
膝下をさくさく 倒さくさく  
と流さく 血神離さく 糸子糖神さく  
死さくあり海さく 天文十さく  
古さく 將軍さく 修理さく 弟さく  
愛さく 代さく 使さく 一さく  
中向のさく 中松のさく 一さく



西便と云ふんともあるが、こゝろは、  
て道とて、  
すし、  
つ、  
て、  
より、  
し、  
む、

るの、  
者、

病、  
一、  
肩、  
の、  
て、  
一、  
あ、  
あ、  
あ、  
あ、







石地小生並又向能される物也 古伸  
さるゝとあつていふ  
一或人のいふを馬十匹果てしむと又  
る小放しと云ふありていふと一代あり  
矢小書き類と絶の神ありていふ  
小化道小有書ありていふ  
右の巻を唯意を小する世末の乃以  
不致述るものあり切光君を人吾解  
とつて後以物ありていふ

より海より小して年理候ありて何事と  
いふは是の運り候ありて一磁石候ありて  
方角候知るといふことい書も又述宗の  
多ありありあり 叙武のいふにけり  
あらんものゝとてあれと云ふ事小あり  
て大坪本流の測畫せりと云ふて天  
地遠小隔下勿漏候と云ふる所を一  
費間の事思ふことと云ふ候所の法書  
候の細砂のいふ 帯叙小曲並形正  
の酒宗相叙小後也の法醫叙小針

矣某氏礼叙小筋馬競馬流瀆了牛  
 追初乃追初是急事座八的扱為  
 将念應系具名流駁乃礼軍叙小馬  
 撰馬教遠系川系為見融合但付流  
 乃扱軍々乃仕立あり是致了了大坪  
 平流の一州とて古書の本込有代押流の  
 美たあつたのまゝあつたあつたは  
 略して子とと守守とせしむる之庶哉  
 好の君子は集小流初あつた改正し流之瑛王  
 事に良と好に入つた題とつとつた人

當流之系傳

大坪式部太輔廣秀  
 村上加賀守永幸  
 衣藤備前守國忠  
 衣藤安藝守好玄  
 衣藤備後守忠玄  
 衣藤衣宮頭辰遠  
 丹后住僧了慶坊  
 衣藤 求馬辰光  
 衣藤 主祝定易

享利資西

享保貳酉年正月吉日

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 酉, 年, 正月, 吉日, and other illegible characters.]*

